

留学経験に基づくアメリカ生活アンケート調査結果報告書

川崎医科大学 衛生学

大槻 剛 巳

(平成13年8月29日受理)

A Questionnaire Regarding American Life Experienced during
Medical and Scientific Stays in the United States

Takemi OTSUKI

Department of Hygiene,

Kawasaki Medical School,

577 Matsushima, Kurashiki, Okayama, 701-0192, Japan

(Received on August 29, 2001)

概 要

2000年度ライフパーク倉敷主催市民学習講座の一環として「医学研究室からのアメリカ便り」として講演を行うことになり、学園内の米国留学経験者より米国の生活についてのアンケートを依頼し、その結果をまとめた。83名に配付し54名(回収率65.1%)から回答を得た。結果を考察すると、近年では生活面でも以前より満足度の高い留学生活ではなく、特に医療保険、教育、税制については問題点も多いようであった。今回は一般市民が聴講生であったため生活一般に関するアンケートであったが、今後は米国留学を希望する研究者・医師への支持のために、その機会や準備等のアンケートを行えば良いと思われた。キーワード：アンケート、アメリカ留学、一般生活、医学医療研究

Abstract

A questionnaire regarding life of Japanese experienced during medical and scientific stays in the United States was given to 83 members of teaching staff of Kawasaki Gakuen in December, 2000 for a civic learning lecture produced by Life-Park Kurashiki. The results indicated that recent stays in the U.S. have been becoming much harder than those during 1960's and 1970's, because of unsatisfactory systems of taxation, education, and specifically medical insurance for Japanese people in the U.S. If the opportunity should arise to produce a similar questionnaire in the future, questions as to how to find such openings and to prepare for going in the U.S. should be included to help young researchers who have the desire to do such study or work there. Key words: questionnaire, stay in U.S., ordinary life, medical and scientific research

結 言

2000年度, ライフパーク倉敷(倉敷市福田町古新田940)では, 市民学習講座の一環として創学コース「日本発アメリカ考」を企画運営した¹⁾。7月より2001年2月まで月1回で「映像文化」や「大統領選挙に関して」「訴訟について」「教育事情」等, 数々の話題を専門家や題材についての経験者が約2時間に渡って講義を行う中で, 参加者とともに身近で最も影響力の強い国アメリカを考えてみようという企画であった¹⁾。著者は, 縁あって2001年1月の講師を依頼され「医学研究室からのアメリカ便り」と題して講演を行うこととなった。当初, 本学の研究ニュース²⁻³⁾や病院広報⁴⁾に掲載された内容を基に, 個人的な経験談を述べる予定であったが, 受講料を払って本コースを受講される人々のことを慮ると, 可能な限り一般論に近い内容を呈示すべきであろうという考えに至り, 学園内のアメリカ留学経験者より, 主に医学・医療研究という立場で留学されていた間のアメリカでの生活面についてのアンケート調査を行うことにより, 個人のみでは感じなかった観点が抽出されることを願い, 実施した。この講義の様子は倉敷ケーブルテレビにても放映されたものであるが⁵⁾, ここに文章として残すことにより, 御協力いただいた方々への結果報告と深謝の気持ちに替えさせていただこうと本稿を記すものである。

対象と方法

今回実施したアンケートの原文は図1に示す通りである。実施時期は2000年12月1日に配付もしくはe-mailでの送付を行い, 同年12月20日を〆切とした。対象は, 学園内(医科大学, 医療福祉大学ならびに医療短期大学)の教員のうち米国留学を経験された方83名とした。回答は, 著者のメールボックスへの投函, もしくはe-mailにての返信とした。

アンケートの結果を客観的に評価する目的で, まず, aからiまでのアンケート項目を満足度の高い選択肢の順に1から5までのスコア化を行い, また, 目的の項目では, 研究・臨床・両方・その他重複の順に1よりスコア化, そして家族構成も表1の左項目より右へ順にスコア化し, 滞在月数, 渡米開始西暦年, 渡米年齢という数値項目とともに, 因子分析を行い, 共通因子を検索した。また, これらの相関を検討し, スピアマンの順位相関係数を用いて解析した。

結 果

回収率と回答

表1にアンケート調査の結果の一覧を示す。回収率は65.1%であった。留学時期は1985~1994年が最も回答者の中で多かったが, それ以前の留学の方には他施設に移られた方も多いためと想定されるため, 今回のアンケートの設定上, 結果については, この時期の印象を中心とした内容となることを考慮すべきと思われた。滞在年数は, 1~3年が過半数(68.5%)であった。また留学開始年齢は30代前半が最も多かった。留学先の州は広範囲に渡ったが, New York州, California州が比較的多い結果であった。大半の回答者が研究目的で米国留学を行っていたが, 中に臨床や, 長期の滞在中で教育に携わった方もあった。留学時の家族構成は, 51.2%が家族

全員という結果であったが、留學先での出産や、単身赴任の場合も見受けられた。

アンケート項目に関しては、今回のアンケートの目的が、市民学習講座での講演であったため、いろんな意見や印象、感想を求めたい意図に基づき、記入式を多く採用するものとなっていた。よって、選択肢のみでは、その結果を俯瞰し切れないのではあるが、まず選択肢の部分から結果を判じてみた。表1にも示すように、アンケートの各項目については、おおまかに3段階に分け得るようである。まず、その他／無回答以外の回答のうちで、『満足』が2/3以上、[ほぼ満足]を加えると9割以上であるb(街並、公園、公共施設や交通)、d(休暇や労働)およびi(自然環境、環境保持、国立公園)、『満足』と[ほぼ満足]で9割を越えるが比較的[ほぼ満足]も多いa(衣食住)、c(公共料金や物価、経済)およびh(人柄、生活習慣や文化)、『これら以外で[満足]のみでは半数に達しなかったり[どちらともいえない]や[あまり満足できなかった]が比較的多数になってくるe(税制)、f(保険制度)およびg(教育制度)』である。特に、fは[あまり満足できなかった]が28.8%と他項目に比して非常に高率であった。

アンケートのコメントについて

まず最初に、回答をいただいた教員の方々には非常に丁寧にコメント欄に御記入頂き、非常に感謝しております。実際の公開講座の講演では、ほとんど全てのコメントをおもに留學年代順にスライドにて紹介させていただきました。しかし、本稿では集約的にまとめて掲載させていただかなければならないことを御承承いただき、かつ謝罪いたしたく思います。

満足度の非常に高かったb(街並、公園、公共施設や交通)では、緑の多さ、道路の広さ、公園の整備等を称賛する意見が多かったものの、自家用車がないと不便な点、都会以外の公共交通機関の不整備を指摘する意見も見受けられた。d(休暇や労働)では、多数の意見が長期休暇、自分の余暇に時間を取れる点などを満足点としていた。しかし、一部、米国では管理されている側の職員は休暇を必ず取るが、管理職側は日本人を越える程のパワーで仕事をしている、との意見もあった。i(自然環境、環境保持、国立公園)では、留學先の地域・都市による格差もあるようであったが、総じて国立公園や自然環境の保持に対する真摯な姿勢を認めるものであった。

次に満足度がほぼ高かったa(衣食住)とc(公共料金や物価、経済)は、どちらのコメントでも食料品・衣類・賃貸住居の廉価さが満足度を生じるようであった。しかし、その反面、食料品の質や味覚の問題、加えて、最近の留學では住居費用も高騰気味にあることが示されていて、これらは米国自体の経済や国力を反映するものであり、現在や近い将来の留學では印象が変わる可能性も否定できないと感じられた。h(人柄、生活習慣や文化)では平均的な米国民の優しさ、おおらかさ、親切さのコメントが多かった。一方、他の項目になるが、1(人種差別)では、現在も明らかに存在し、特に60~70年代に留學をされた方々からのコメントには実体験としての差別を受けた模様も記されたい。加えて、90年代でも垣間見る差別の経験

- () 不満, () どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。
- d. 休暇や労働に関して
 () 満足, () ほぼ満足, () あまり満足できなかった,
 () 不満, () どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。
- e. 税制 (自己申告制あるいは酒・煙草・ガソリン等) に関して
 () 満足, () ほぼ満足, () あまり満足できなかった,
 () 不満, () どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。
- f. 保険制度 (医療保険・自動車保険等) について
 () 満足, () ほぼ満足, () あまり満足できなかった,
 () 不満, () どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。
- g. 教育制度に関して
 () 満足, () ほぼ満足, () あまり満足できなかった,
 () 不満, () どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。また, お子様の留学当時の御年齢もお差し支えないようでしたら御記入下さい。
- h. 人柄や生活慣習, あるいは文化面について
 () 満足, () ほぼ満足, () あまり満足できなかった,
 () 不満, () どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。
- i. 自然環境, 環境保持等, 国立公園等について
 () 満足, () ほぼ満足, () あまり満足できなかった,
 () 不満, () どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。
- j. 宗教について
- k. 政治について
- l. 人種差別, あるいは複数民族国家という点について
- m. その他 (どのような観点でも構いませんので, 御記入下さい)
10. 最後に, 今後日本が, アメリカから見習うべき事あるいは学ぶべき事, 反対に見習ってはいけないと思える事もしくは学ぶべきではないと思われる事といった観点で何かございましたら御記入下さい。

お忙しい中, まことにありがとうございました。御協力に深謝いたします。

- 1 氏名（お差し支えない方のみ御記入下さい） _____
- 2 現在の年齢（お差し支えない方のみ御記入下さい） _____ 歳
- 3 性（お差し支えない方のみ御記入下さい） _____
- 4 留学時期 _____ 年 _____ 月～ _____ 年 _____ 月
計 _____ 年 _____ カ月
- 5 留学時の年齢（お差し支えない方のみ御記入下さい） _____ 歳～ _____ 歳
- 6 留学場所 都市 _____ 州 _____
施設（大学名教室名，研究所名部署名等）（お差し支えない方のみ御記入下さい）

- 7 留学目的 臨床， 研究， 臨床及び研究
 その他 _____
- 8 渡米の家族構成
 独身， 単身（家族は在日）， 配偶者とのみ（子供はいなかった）
 配偶者とのみ（子供は在日）， 家族全員，
 その他 _____
- 9 留学を通して見たアメリカについて，
[A] 医学／医科学的視点あるいは研究室という観点から
（それぞれについてお感じになられた点がございましたら御記入下さい）
a. アメリカが優れていると感じた点.
b. 日本が優れていると感じた点.
c. 日米間の差は感じなかった点.
[B] アメリカでの生活に関して
（選択肢を設けております項目には 内に x を付けて下さい）
（留学経験・アメリカ生活によってお感じになられた事を御記入下さい）
（特記事項がない場合は空欄にしておいて下さい）
a. 衣食住に関して
 満足， ほぼ満足， あまり満足できなかった，
 不満， どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。
b. 街並や公園，公共施設や交通等について
 満足， ほぼ満足， あまり満足できなかった，
 不満， どちらとも云えない
 ・具体的にコメントがございましたら御記入下さい。
c. 公共料金や物価，あるいはアメリカ経済に関して（ショッピング等も含む）
 満足， ほぼ満足， あまり満足できなかった，

図1 「米国留学経験アンケート」全文

表1 アンケート調査の結果一覧

回収率	回答54名/配付83名(回収率65.1%)											
留学時期 (複数回答あり)	1960以前	1961~1964	1965~1969	1970~1974	1975~1979	1980~1984	1985~1989	1990~1994	1995~2000			
人数	1	6	6	4	1	5	12	13	9			
滞在年数(年)	0~1	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9			
人数	4	21	16	8	2	0	2	0	2			
留学開始年齢(歳)	20~24		25~29		30~34		35~40		40~			
人数	1		8		25		13		5			
留学場所(州)	NY	CA	MD	TX	WA	MI	TN	WI	HI	PA	Others	
人数	12	9	5	4	4	3	3	2	2	2	10	
留学目的	臨床		研究		臨床+研究		その他		学習・研修		臨床・研究・ 医学生教育	
人数	3		43		4		2		1		1	
家族構成	独身	単身 (家族は在日)	配偶者とのみ (子供はいなかった)	配偶者とのみ (子供は在日)	家族全員	独身→単身	単身→ 家族全員	単身→ 配偶者とのみ →家族全員	配偶者とのみ (家族は在日)	配偶者とのみ (子供はいなかった) →家族全員	家族全員 →単身 (家族は在日)	
人数	9	4	5	0	28	1	1	1	1	1	1	1
アンケート項目	満足		ほぼ満足		どちらとも いえない		あまり満足 できなかった		不満		その他/無回答	
a	31		22		0		1		0		0	
b	36		17		1		0		0		0	
c	33		21		0		0		0		0	
d	36		12		4		1		0		1	
e	23		13		8		5		2		3	
f	10		17		5		15		5		3	
g	12		14		14		4		0		10	
h	26		22		2		1		0		3	
i	38		12		1		1		0		2	

は大なり小なりあるようだった。ちなみに、j(宗教)、k(政治)については多くのコメントはなかったが、比較的好意的あるいは肯定的な意見が多かったようである。なおh(人柄、生活習慣や文化)におけるコメントが多く好感度であったのは、医学研究留学という立場で1~3年を中心に留学していた今回の回答者の社会環境も考慮しないと知らないかも知れない。

最後に低満足度e(税制)について、短期の場合は両国間の取り決めによる免除があるため自己申告制の国税の書類作成が不要であるが、長期になった回答者もしくはJ-1という留学生ビザ以外の回答者の方々からは、自己申告書類作成の困難さ、また税理士等に依頼する際の面倒さの指摘があった。f(保険制度)では日本の国民皆保険制度と比較して不公平さ・不便さ・高額であることに対する不満足点が多くまた声高に指摘されていた。g(教育制度)でも幼稚園~小学校低学年までで非常に好感を抱かれたコメントと、長期滞在もしくは年長の子弟の教育において荒れる学校や差別的な場面に対する否定的な意見、もしくは、エリートと一般との教育格差に言及されるコメントも見られた。

アンケート項目10へのコメント

まず医学/医科学的視点から日米間での差がない点では、個人の能力・研究の内容・取り組み方・設備・よく働くトップレベル・アイデア等が記されていた。

日本が優れているという点では、身分、サラリー、保険等の安定が挙げられ、即ち終身雇用制に代表される雇用体制が、ある意味長期的展望にたった研究を行えたり、医療が市場原理の

みで動かされていない点につながっているという印象である。反対に米国が優れている点は、豊富な研究費、激しい討論と自己アピール、充実したスタッフ、合理的なシステム、といった点が挙げられていたが、集約的には自己責任という言葉につながるようである。これは、しかし自ら研究費を奪取できなければ、雇用契約さえも無に帰してしまう危険性にもつながり、日本の良い点（終身雇用）とは、うらはらとも捉えられる。

ついで、より大きな観点からは、日本が見習うべき点として、自由・独創性・合理性・自立性・フロンティア精神・チャレンジ精神ということが挙げられ、反対に、銃所持・犯罪の多さ・過度の競争・大国主義（America is No. 1）・陪審員制度・医療保険制度などは学ぶべきでないという意見であった。

留學経験からのアメリカ生活の印象の客観化

方法の項に示すように、いくつかのアンケート項目をスコア化し、因子分析を行った。表2にその結果を示すが、例えば、因子Aは、項目a・c・e・hに概ね同様の満足度を示す群、Bは滞在月数が短い程渡米年齢は高く保険制度には満足度が高い群という回答者の中のサブグループの存在を抽出していると判断する。因子Cは、概ね家族全員での渡米に近くなるほど、税制への満足度が低い群、因子Dは、渡米西暦年が古く滞在月数が長い群で街並・公園・公共施設・交通への満足度が低い群と想定される。以下の因子は寄与率は相対的に高くないが、因子E：衣食住への満足度は高い反面、教育制度へのそれは低い群、因子F：渡米西暦年が古く、休暇・労働への満足度が高い群、そして因子G：目的が研究単独の場合、滞在月数が短い群、と判定されるものである。

表2 全項目の因子分析による共通因子の検索
—結果からの考案—

因子	A	B	C	D	E	F	G
滞在月数(月)		-.461		.461			-.440
渡米西暦年				-.405		-.496	
渡米年齢(歳)		.633					
目的(スコア化)							.927
家族構成(スコア化)			.855				
項目a(衣食住)	.501				-.658		
項目b(街並・公園・公共施設)				.865			
項目c(公共料金・物価・経済)	.800						
項目d(休暇・労働)						.856	
項目e(税制)	.758		.491				
項目f(保険制度)		.896					
項目g(教育制度)							
項目h(人柄・生活習慣・文化)	.687				.805		
項目i(自然環境・国立公園)				.789			

次に、これらの項目の相関を検討すると、図2に示すようにいくつかに有意差が認められた。図2-Aでは、渡米年齢と渡米西暦年の高さに正の相関があり、近年は以前より高年齢で留學しているようである。図2-Bは、滞在月数と西暦年間の負の相関を示しているが、この場合、

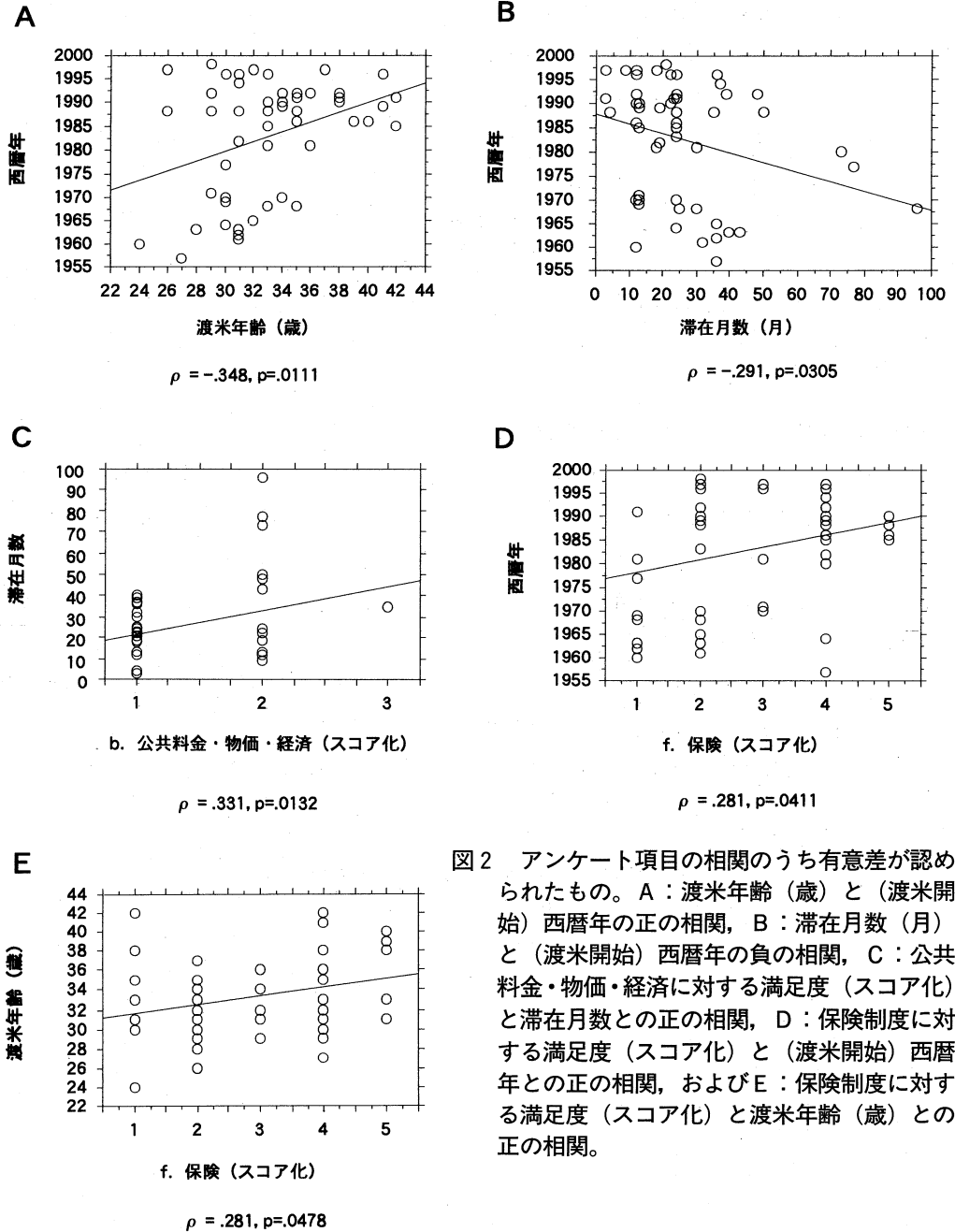


図2 アンケート項目の相関のうち有意差が認められたもの。A：渡米年齢(歳)と(渡米開始)西暦年の正の相関, B：滞在月数(月)と(渡米開始)西暦年の負の相関, C：公共料金・物価・経済に対する満足度(スコア化)と滞在月数との正の相関, D：保険制度に対する満足度(スコア化)と(渡米開始)西暦年との正の相関, およびE：保険制度に対する満足度(スコア化)と渡米年齢(歳)との正の相関。

最近の渡米で、帰国者は本回答者に含まれるが、依然留学中の方は入っていないという点も考慮すべきであろう。図2-Cでは、滞在月数が短い程公共料金等への満足度が高い、図2-DおよびEでは、近年に渡米している程もしくは渡米年齢が高い程、保険制度への満足度が低いことが表されている。

考 察

まず、今回のアンケート調査は、市民公開講座の講演を行う目的で施行したものである。従って、医学と関係のない一般市民の聴講生の方々に医学留学から見たアメリカ生活の印象を語るという方針をとった。これは、今後、アメリカへの医学留学を目指す医師・研究者にとっては、生活全般については大まかに理解することは出来ても、実際に、留学の機会を見出すためにどのようなことを心掛け実践すべきか、もしくは留学が決まった場合にどのように何を準備し心構えをするか、という観点には全く触れられていないアンケートであり、参考にはならないと感ぜられるかも知れない。確かに、身近な人の実体験に基づく情報は有用であろうとも考えられるので、機会が許せばそのような試みも行ってみたいとも考えるが、当面は、いくつかのウェブサイト等で情報を得ていただきたく思っている⁶⁻⁹⁾。

さて、今回のアンケートの結果からは、非常におおざっぱな言い方を容赦していただくとすると、以前はバラ色であった米国医学留学も昨今では生活自体もなかなか厳しくなっている、という印象として良いのではないかと思われる。特に、医療保険制度は日米間の差が大きく、ほとんどの回答者は米国式の市場原理による医療には嫌悪感さえ示されているようであり、市民講座でもこの点への質疑が最も多かった。医学研究という観点から抽出される言及すべき姿勢は、日本における研究者・医師としての安定した生活（身分、サラリー、職等）の中で、米国式の（米国留学経験で学んだ）自立・自己責任・独創性を為していくことが、ある意味、両国の優れた点を最も有用に利用して、仕事を成していくことにつながるように感じられる。

こういった結果・考察点は、著者自身が留学経験に基づき漠然と感じていたことであったが、今回、少なくとも学園内の米国留学経験者の意見・感想の集約点が、ほぼ類似した内容となったことは、同様の経験の中で熟成される印象の近似性を示すとともに、今後の米国留学希望者への助言の一部になり得るものと思ひ、回答を寄せていただいた方々に深く感謝したい。なお、本稿では紹介できなかったコメントの詳細等は、いつでも提示可能です。お気軽に著者に御連絡をいただければ幸いです。

謝 辞

重ねて、今回のアンケートを回答してくださいました先生方に感謝いたします。また、アンケートの作成・まとめには、衛生学教室坂口補助員の絶大なる助力をいただきました。併せて、深謝いたしたく思います。

文 献

- 1) 創学コース「日本発アメリカ考」(市民学習) Life Park Eye (ライフパーク アイ). 26 : 7, 2000
- 2) 大槻剛巳：ファー・イーストに住む君へ Letter from Minneapolis, Minnesota [April, 1992-June, 1993]. 川崎医科大学研究ニュース 48 : 30, 1996
- 3) 大槻剛巳：ファー・イーストに住む君へその2 - Letter from Rockville, Maryland [July,

- 1993-March, 1996]. 川崎医科大学研究ニュース 48:31, 1996
- 4) 大槻剛巳: ファー・イーストに住む君へーその3ー Letter from Kurashiki, OKAYAMA (March, 1996-present), 川崎医科大学附属病院広報 86:8-9, 1996
 - 5) 倉敷ケーブルテレビ June, 1, 2001
 - 6) <http://www.gwjapan.com/nih-iwg>
 - 7) <http://www.che.rochester.edu:8080/~tomasa/rochester.htm>
 - 8) <http://www.kenkyuu.net/>
 - 9) <http://penta.prohosting.com/index.html>